



2014年1月16日

お客様向け資料

BNP パリバ インベストメント・パートナーズ株式会社

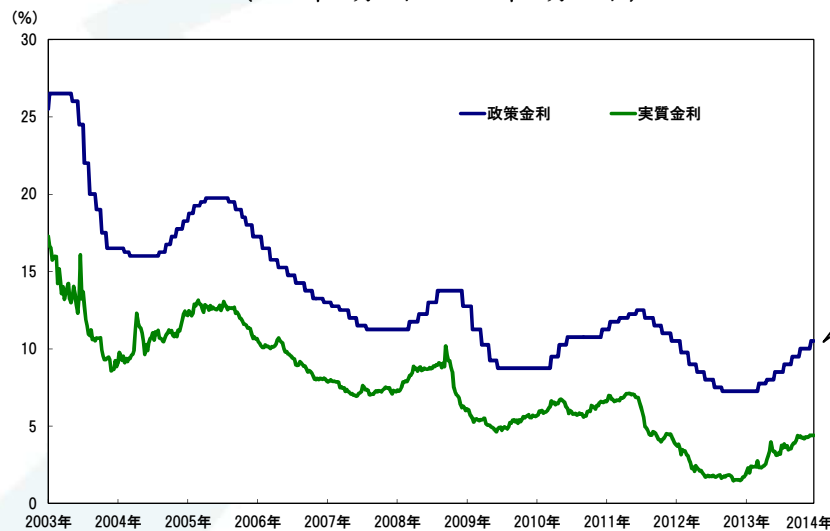
ブラジルの政策金利の引き上げについて

ブラジル中央銀行は、現地2014年1月14日および15日にCOPOM（定例金融政策委員会）を開催し、Selic（政策金利）を10.0%から10.5%に引き上げることを決定しました。これで、利上げは、昨年から7会合連続となり、利上げ幅の合計は3.25%（325ベースポイント）となりました。

前回（2013年11月27日）COPOM後に発表された議事録では、「現状の利上げは適切であるが、金融政策の影響はインフレに遅れて現れる」との見解が示されました。市場の事前予想では、2014年も利上げの継続はされるものの、そのペースが緩やかになる可能性があるとの見解でした。しかし、2014年1月10日発表の12月拡大消費者物価指数（IPCA）が前年同月比5.91%と前回の5.77%から加速しており、事前予想を上回りました。政府目標上限の6.5%こそ上回りはしなかったものの、目標の中心値である4.5%からは継続的に上振れしている状況でした。このことからブラジル中央銀行がインフレとの対策で窮地に立たされていることが示されたため、今回のCOPOMでは全会一致で50ベースポイントの追加利上げを決定した模様です。利上げによりインフレを抑制しようとする中央銀行の方針は明らかに継続され、リアル安に伴うインフレ高を抑えるため、為替介入プログラムを継続する姿勢も表明されています。

今週に入ってから金利先物の動きから、市場参加者の一部では50ベースポイント引き上げられるとの見方が台頭し、市場には織り込まれつつありました。そのことから金融市場への影響は限定的と見込まれ、16日早朝の東京時間の為替市場は比較的落ち着いた推移となっております。

＜ブラジル政策金利と実質金利の推移＞
（2003年2月1日～2014年1月15日）



2014年1月15日
10.0%→10.5%へ
0.5%の引き上げ

*政策金利：Selicを使用
*実質金利：名目金利とインフレ率
を使用し算出
(データ出所：ブラジル中央銀行)

本資料は、BNPパリバアセットマネジメントブラジルが作成した資料をもとに、BNPパリバインベストメント・パートナーズ株式会社が、ブラジル市場に関する当社の見解等を提供することを目的として、上記の時点に作成したものであり、法律に基づいた開示資料ではありません。本資料における統計等は、当社が信頼できると思われる外部情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性や完全性を保証するものではありません。本資料中の数値、図表、見解や予測などは本資料作成時点でのものであり、予告なく変更する場合があります。尚、本資料中の過去の実績に関する数値、表、見解や予測などを含むいかなる内容も将来の運用成績を保証するものではありません。